

平成 2 1 年 1 0 月

[配布先：全組合員]

市場情報

<各地区需要動向>

北海道

美しい秋の始まりも需要は更に深刻

大雪山に初冠雪、紅葉も真っ盛り、大勢の観光客で101人乗りのケーブルカーは国内外の観光客で超満員、いよいよ美しい秋の始まりです。しかし、今年は天候不順による農業被害が拡大、農業立国北海道にとって経済に与える影響は一層深刻さを増してきました。

北海道の需要構造の中心である建築の冷え込みが著しく、建築統計によると、1～7月の鉄骨推計は74,200トン（前年同期126,100トン）で前年同期比41.2%減、8月の積算数量は5,200トン、1～8月累計は、66,457トン（前年同期145,449トン）で前年同期比54.3%減となり、年度内の中・大型物件の需要回復は厳しく、秋以降の工場稼働率の急落に懸念を強め悲観的ムードが漂っている。

シヤー業界は、道内外の大型プロジェクトや農業関連施設、耐震補強関連案件、橋梁の受注により比較的安定操業をしているが、秋口以降の新規物件は例年に比べ極端に少なく、今後量的枯渇感が顕著になり深刻度が増すものと憂慮されている。価格については、ゼネコンの過当競争による鉄骨価格の値下がりから、本州切板価格や電炉材切り板価格の情報により、指値は一層と厳しくなってきたが、お互い値引き合戦しても大幅な受注増に繋がらない為、慎重に対応している。

（玉造・西村卓也）

東 京

希 望 の 光

昨年の6月に、「鋼材品質証明に関するアンケート」を提出してから1年余りを経て、「建築構造用鋼材の品質証明ガイドライン」の原案が出来上がりました。この原案に沿って、組合から鉄骨建設業協会・全国鐵構工業協会の各社幹部に最終説明をするに当たって、シヤーから要望したい点に漏れがないか、曖昧になっている点を正すところがないか、再度見直しを行い組合に提出する運びとなっています。

それを受けて品質面、契約面について社内で意見を募ったところ、非常に多くの改善提案が出されました。今までこの様な機会が与えられなかったこともあり、従来からの慣習に従い、長い間、過剰とも言える木目細かなサービスを提供し続けてきたことを痛感しているところです。同時にシヤーが果たす役割・機能が如何に大きいか、改めて感じているところです。

我々にとって一番大切なユーザーの立場を理解しつつ、シヤーの言い分も聞いて頂き、お互いきっちり向き合うことが出来る絶好の機会と期待しています。将来に互って役割を担うシヤーであるために、我々も変革を重ね、お互いにとって利益を享受し合える関係を作っていくことを切望しています。希望の光が見えました。

(山惣熔断 ・ 根本泰伸)

東 海

現状の売れ行きからすると、まだ在庫過多

8月の長いお盆休み、9月のシルバーウィークも終わり、通常なら“さあこれから”と言う季節ですが、全くその様な感じがありません。

客先では鉄骨単価の安さの話ばかりで、先行きの見通しについても、「来年いっぱい駄目」とか、「2～3年はこのような状態が続く」のではないかとか、我々の気力が萎えるような話ばかりで、取敢えず1年は辛抱せればと思っております。

当地区では、オフィスビルの空室も増えており、新想案件は、月単位の延期により一向に進まないものや、縮小・中止などで、いい話は何一つない状態です。

以上のようなことから、東海地区の建材切板については、非常に厳しいの一言に尽きます。値段の前にまず数量が全く集まらない。

4月以降、対前年度比3～5割の受注ができれば良い方ではないでしょうか。在庫については、切板の出荷数量が減っているとはいえ、メーカー申込みを減らしている分、月を追うごとに全体としては目処が立っていると思います。

しかし、規格、サイズ等において在庫のアンバランスがあり、多少在庫を補充せざるを得ませんが、現状の売れ行きを考えますと、まだまだ在庫過多の感が拭えません。

また、切板価格にあった母材を仕入れることも出来ず(切板価格の下がりすぎ!?)、八方ふさがりの状態です

(熱金鋼業・山村彰宏)